

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 20 号
2011 年 5 月 13 日

| 1

活動レポート



宮 城

●千厩拠点

【5/12】気仙沼市波路上地区の畑で、散在しているがれきの清掃作業を実施。

現地から 坂を 50 メートル上った先にある家は無傷。まさに津波被害の境界線での作業でした。依頼者の要望に応じて、使用できる漁具や記念品などは極力分けるよう気を配りました。作業中に潰れた金庫やポーチを発見、権利書などの重要物が入っており、依頼主に大変喜ばれました。現場にはクギのついた木材も多くありましたが、互いに声を掛け合い注意しながら作業しました。

福 島

●福島拠点

【5/11】相馬市内で被災家屋からの家財搬出・泥出し、新地町では道路側溝の泥出し・清掃を実施。

●会津拠点

【5/12】郡山市とその周辺の避難所で、炊き出しや野菜切りなどを実施。避難所別に野菜を分け、カットと水洗い。炊き出しは 5 ヶ所に分散して鶏つみれ汁を作る。また、会津若松では、支援物資の整理・配布などを行い、約 1,000 人の来所者に対応した。

●いわき拠点

【5/12】いわき市内で津波被害を受けた店舗兼住宅の清掃・整頓を実施。また、ボランティアセンターでの備品貸し出し・受け取りなどの業務を行った。

現地から 店舗部分は米屋の倉庫。床に散乱した米にはカビが生えていて大変でした。住居部分も衣類などが散乱し、依頼主も整理する意欲を失っている様子が気になります。

「活動のてびき」「現地情報」を更新しました

本日（5/13）、連合救援ボランティア活動のてびき、各拠点の現地拠点の情報を更新しました。詳細は発信文書でご確認ください。



写真で見る各地の活動



■側溝の泥出し作業中の一コマ（11日・福島県新地町）



■家屋からの家財搬出、土砂除去（11日・福島県相馬市）



■ボランティアセンターで資材班として活躍する連合チーム（12日・福島県いわき市）



■道路を挟んで両側の畑で清掃活動。魚やワカメの腐敗臭とたたかいながらの作業が続く（12日・宮城県気仙沼市）



■家屋の整理作業を行う。その前にまずは家屋への通路確保から（12日・福島県いわき市）

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 21 号
2011 年 5 月 17 日

| 1

連合ボランティア 延べ人数 1 万人を超える

連合救援ボランティアの延べ活動人数は、5 月 16 日時点で 10,289 人となりました（実派遣人数は 1,540 人）。活動内容は被災家屋や道路、田畑の泥出し、家財の片付け、避難所での炊き出し、支援物資の仕分けと多岐にわたり、活動地域の広がりとともに連合の取り組みに対する理解が広がっています。

この間ご参加頂いた各構成組織・地方連合会の皆さんに感謝申し上げるとともに、引き続きのご協力をお願いいたします。

活動レポート

岩 手

●住田拠点

【5/15】床下の泥出しおよび石灰撒き、泥をかぶった家具や洗面台の高圧洗浄を実施。

現地から 連合ボランティア隊の皆さんは、家主さんの指示に従いつつ、てきぱきと作業しました。作業も 5 日目となり疲れもありますが、同時にやりがいも日に日に大きくなっています。

宮 城

●仙台拠点

【5/11～13】石巻市と亘理町で家屋・敷地・側溝からの泥出し、家財の移動などを実施。

現地から 亘理町では一本松地区で側溝のヘドロ除去作業を実施。3 日間で 3km の側溝から 1,600 個以上の土嚢を積み上げました。

福 島

●福島拠点

【5/13～14】相馬市で被災家屋からの泥出し、農機具の搬出、新地町では道路側溝の泥出し、土嚢への土砂詰めを実施。

現地から 相馬では、家主が要望していた金婚式の写真（石版）を発見し、喜ばれました。新地町は津波被害の甚大な地域であり、改めて震災の被害を実感しながらの作業です。

●会津拠点

【5/13～16】郡山班は、郡山市とその周辺の避難所での炊き出し、野菜カット、会津若松班は支援物資センターでの物資仕分け、配布を行う。

現地から 直接配膳まで行っているところでは、避難された方と顔見知りになり、会話することもあります。16 日はどの避難所でも配膳数が用意した数を下回りました。仮設住宅が決まって移動が始まったことなどもあるようです。

※連合災害対策救援本部は 16 日、福島県南相馬市を連合救援ボランティアの活動対象に加えることとしました。福島県社会福祉協議会、連合福島からのボランティア要請と、福島第一原発から半径 20km～30km 圏内に設定されていた「屋内退避区域」の解除を踏まえたものです（当該地域は「緊急時避難準備区域」ですが、通常の生活をする上で健康への問題はないことが政府により確認されています。なお、「計画的避難準備区域」では活動を行ないません）。活動にあたっては、通常通りのボランティア活動が可能ですが、マスク等の装備、緊急時の避難対応など必要な措置を講じた上で活動を実施することとします。

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第22号
2011年5月19日

| 1

ボランティア第7陣325名が出発

5月18日、救援ボランティア第7陣325名が、第6陣298名と入れ替わりで各拠点に向け出発しました。3月31日の派遣開始以来の人員数は1,869名、延べ活動人員（人数×日数）は、10,872名となっています（5/19時点）。安全・健康に気をつけて、現地でご活躍ください！

■地元マスコミも視線■



河北新報・5月19日朝刊で、宮城県での連合ボランティアの取り組みが掲載されました。県下の団体ボランティアとしては最大規模であること、岩手・福島にも同規模のボランティアを送り込んでいることが、関係者のコメントとともに紹介されています（記事は[河北新報ホームページ](#)でもご覧いただけます）。

連合、マンパワー活躍 被災地にボランティア派遣



民家の片付けを手伝う連合傘下の労組組合員=4月、気仙沼市

連合が、団体・組織としては最大規模のボランティアを宮城県内の東日本大震災の被災地に派遣している。4月以降、ボランティア活動をした組合員は600人以上。受け入れ窓口の連合宮城は「被災地全体に貢献したい」として、当面、7月まで続ける方針だ。

連合は4月1日からボランティアを県内に派遣。1陣ごとに約100人が参加し、今月18日には第7陣が着任した。被災地で3日間作業し、1日の休暇を挟んで、さらに3日間作業する。

派遣先や作業内容は県災害ボランティアセンターに調整してもらい、気仙沼、石巻両市、亘理町などで一般住宅や側溝の掃除、家財の運び出しを行ってきた。

現地本部責任者を務める連合の須田孝労働条件局長は「働く者全てのために何ができるかが連合の原点。災害時の社会貢献こそが労組の社会的使命だ」と強調する。

同センターによると、県を介してボランティアに参加する団体としては最大規模。1日2000人台で推移する県内ボランティアの約5%に当たる。センターは「センター事務局にもボランティアを出してもらい、大変力になる」と感謝する。

石巻市で活動し、17日に離任した東京の製薬会社社員の鈴木真理さん(43)は「被災規模が大きいために細く長く、継続して活動を続けることが大事」と話した。

連合宮城の山崎透会長は「全国の組合員が参加してくれ、連帯を感じる」と支援に感謝する。

連合は岩手、福島両県にも宮城と同規模のボランティアを送り込んでいる。

2011年05月19日木曜日

Copyright © The Kahoku Shimpō

ボランティア
第7陣

各地で活動はじめる

18日に東京を出発した救援ボランティア第7陣のメンバーは、翌19日から各地での活動を開始しています。各地から寄せられたレポートを紹介します。

岩 手

●宮古拠点

【5/19】宮古市津軽石地区で、ボランティア隊全員で200平方メートルの畑に山積したヘドロの除去を行いました。固まったヘドロをくわで掘り起こし、一輪車に乗せて30メートル離れた空き地に移します。今日は風が強くヘドロが舞い上がるため、マスクとゴーグルの装備、ベースキャンプに戻った後のうがい・手洗い・顔洗いは欠かせません。



宮 城

●千厩拠点

【5/19】気仙沼市松崎浦田地区で民家の庭に堆積した泥などの除去、水田で漂着物の撤去を行いました。



福 島

●福島拠点

【5/19】新地町では道路側溝内に堆積した泥の搬出作業と水つまりの解消作業（写真）、南相馬市では、民家の瓦、ブロック塀に使われていたブロックの撤去作業を実施しました。

現地から 新地町の被災状況は想像していた以上で言葉になりません。一方、その近くでは田植えが行われており、何とも言えない感覚の中での活動です。



●会津拠点

【5/19】郡山、会津若松、相馬の3班に分かれて活動しました。郡山班は炊き出し（約1,000食分の野菜カット、避難所5ヶ所で中華スープの調理・配膳）、会津若松班は、物資支援センターでの物資仕分け、相馬班は、いちごハウスに流れ込んだ泥やゴミの撤去、ビニールシートや支柱の取り外し作業を実施しました（写真）。



●いわき拠点

【5/19】市内の民家での片づけ作業と、ボランティアセンター資材班の運営に分かれて活動しました。

準備器材のお知らせ 福島・会津拠点で活動予定の皆様へ

福島・会津拠点では、これまで、郡山・会津若松などで炊き出しや支援物資の仕分け作業を中心に活動してきたため、安全靴・安全中敷きを利用する機会はありませんでした。しかし第7陣以降、相馬地域における屋外での片づけ作業も行うようになっていきます。したがって、今後は安全靴・安全中敷き等の準備をお願いします。

これも大事な活動です ～ボランティアの後方支援～

各拠点のメンテナンス無くして、毎日の活動を円滑に行なうことはできません。宮古拠点では、交代で参加者がボランティアの後方支援を行っています。日中は拠点に残り、水や消耗品の在庫調整、前日に使用した合羽・ゴム手袋・軍手などの洗濯をするなど、翌日の活動に備えます。また、天気のいい日には布団も干します。これらは後方支援のほんの一例ですが、いずれも現場活動を支える重要な任務です。

(写真右) 洗濯を終えたゴム手袋を左右対にして輪ゴム止めている、連合ボランティア隊の桑名紘子さん(UIゼンセン同盟)とベースキャンプ責任者の連合岩手三浦副事務局長。干したゴム手袋を裏返す作業は「厚手なので、指先の力を使います(桑名さん)」



■ 気仙沼市内での民家敷地の片づけ作業(15日) 写真左から作業開始時点、1時間経過後、終了時。4時間かかりですっきりきれいに。



写真で見る各地の活動

←いわき市内の公道で側溝の清掃。他の地域も同様だが、梅雨時期に側溝から雨水があふれる事態は避けなければならない(15日)



↑ 福島・新地町での作業。ハンマーで細かく砕いたブロックを、ボランティア隊が手渡しでリレーする(19日)

第7陣・活動報告

各地で奮闘中!



宮 城

●仙台拠点

【5/19-20】巨理町で活動。民家の庭で泥や砂の撤去作業、側溝清掃を実施。

【5/21】巨理町で活動。米農家からの依頼を受け、住宅と水田周辺の側溝で清掃作業。

現地から 500~700m 四方はあろうかという広さでしたが、一日で作業を終えることができました。

福 島

●福島拠点

【5/20-21】新地町と南相馬市で活動。新地町では、道路脇の側溝からの泥出し、清掃を実施。南相馬市では、納屋からの泥出しと家財道具の分別・廃棄を行う。

現地から 気温が上がり、暑い中での作業です。側溝での作業は、コンクリートのフタを外し、泥を土嚢に詰め、再びフタを戻す作業を繰り返します。炎天下での力仕事です。南相馬では水道が復旧していない現場もあるため、器材や靴・作業着の泥を落とすため、ポリタンクに水を入れて持ち込む必要があります。

●会津拠点

【5/20-21】郡山市、会津若松市、相馬市で活動。郡山班は炊き出し（野菜のカット、1,000人前の玉ねぎを炒める作業、味噌汁づくりなど）を実施。会津若松では、支援物資を倉庫から物資センターに搬入する作業を行う。炊き出し用の食材、衣類、バスタオルなどをワゴン車などでピストン輸送。相馬では、いちご農家でハウス内に流れ込んだ泥の撤去、ビニールハウスを再利用するための作業（ビニールシートや支柱の片づけ）を実施。

現地から 休日は一般ボランティアの参加が増えるため、平日に比べると作業量は少なくなるようです。炊き出し先では、被災された方とコミュニケーションを取る中で、避難生活のご苦勞を目の当たりにするとともに、炊き出しの重要性を改めて認識しています。



■（写真上）雨水桝に詰まった泥、（写真中）作業中の様子、（写真下）きれいになった雨水桝（21日・新地町）

●いわき拠点

【5/21-22】いわき市久ノ浜地区での民家での片づけ作業を実施。ボランティアセンターでは、機材貸し出し・返却などの管理業務を実施。休日で一般ボランティアが多く訪れるため、ボランティアセンター入口での交通整理も行う。

現地から ボランティアセンターで貸し出している一輪車は連日の使用で消耗が激しく、動きが悪くなっているもの出てきました。そこで、連合チームのメンバーが車軸のメンテナンスなど修理を実施。ボランティアセンター事務局から大変感謝されました。



■清掃作業に入った民家の押し入れの奥にいた、生まれて日の浅い子猫たち。津波を乗り越えた新しい生命はここにも（南相馬・20日）

写真で見る各地の活動



■（写真左）南相馬での清掃作業。乾いたヘドロは埃となって舞い上がる。マスクは必需品（21日）



■（写真中）ボランティアセンターの様子（20日）（写真右）1日の作業を終え、使用した機材の汚れを水で洗い流す。高圧洗浄機が活躍（21日） いずれも新地町のボランティアセンター



7月の派遣について枠組みを確認

本日開催された連合の中央執行委員会で、7月以降の救援ボランティア活動について確認されました。7月については現行の救援活動を引き続き展開することとし、8月以降については、現地の状況や一般ボランティアの動向を踏まえつつ、活動内容や規模を6月以降の中央執行委員会で都度協議していくこととなりました。

連合のボランティア活動に対しては、平日休日を問わず一定規模を継続的に派遣していることについて、現地ボランティアセンターからの期待が大きいところです。他方、気温上昇などの環境変化による参加者や現地スタッフの負担軽減についての考慮も必要となっています。これらを踏まえ、連合の災害救援対策本部では、現地ヒアリングを行いながら、7月以降の取り組みについて、中央執行委員会に提起したものです。

引き続き、各構成組織、地方連合会のご協力をお願いいたします。

7月からの主な変更点

1. 派遣日程の変更

7月から、実活動日を月曜～金曜の5日間とします。

これに合わせるため、第12陣(6/27出発)についても、活動日数を実働5日に短縮します。第12陣の復路バス出発は、岩手・宮城は7/2、福島は7/3となりますので、参加予定の方への連絡をよろしくお願いいたします。

2. バス運行日の変更

上記の日程変更に伴い、7月のバス運行日を以下の通りとします。

【往路】東京発：7/3、7/10、7/17、7/24（毎週日曜・連合本部発）

【復路】岩手・宮城発：7/8、7/15、7/22、7/29（毎週金曜夜発→土曜朝東京着）

福島発：7/9、7/16、7/23、7/30（毎週土曜朝発→昼東京着）

※復路バスの終点は東京駅（丸の内北口）とします（連合本部での下車はありません）。

※出発・到着時刻は現在調整中ですが、概ね6月までと同様となる見込みです。確定次第、別途文書でお知らせします。

第 8 陣 3 2 2 名が出発

本日、救援ボランティア第8陣のメンバー322名が連合本部を出発しました。5月26日現在の派遣実数は2,254名、第7陣終了時点の延べ人数は13,032（参加人数×稼働日数）となっています。

連合ボランティアセンター内でワークショップを開催

—連合岩手・東和ボランティアセンター「雨の日プログラム」—



5月30日、連合岩手・東和ボランティアセンターで、参加ボランティアとセンタースタッフによるワークショップを開催し、経験交流と意見交換を行いました。これは、雨の予報によって当日の活動中止が決まったため、「雨の日プログラム」として企画、開催したもので、15名が参加しました。

ワークショップでは、ボランティアセンタースタッフ（連合岩手：道又・大川両副事務局長／電機岩手：佐藤さん／JP労組岩手：古山さん）から、発生直後とそのあとの対応について、当事者だからこそできる話をして頂きました。

○テレビ・ラジオでは逐次伝えられていた情報も、発生直後から数日続く停電のために、実は被災地にいる自分たちは満足にアクセスできておらず、何が起きているのかわからなかった。

○携帯電話が全く役に立たなかった。また、緊急連絡網も通信不通などであまり機能しなかった。一方で、会社による社員への物資の配給が社員の消息把握に大きく役に立った。

○なによりも、「この状態はいつまで続くのだろう」という不安が全てだった、など…

震災の影響を直接受けていない地域から参加したボランティアは、メディアを通じてでは得られない情報だ、と熱心に耳を傾け、質問していました。また、ボランティア活動について参加者からは、活動地点のボランティアセンターが指示する作業内容を事前に把握するとボランティアの効果をさらに高められる、との意見も出されました。



■報告に熱心に耳を傾けるボランティアメンバー

活動レポート

岩手

●東和拠点

【5/27】釜石市と大槌町で活動。釜石では浸水家屋の壁・床はがし、床下のヘド口除去を実施。大槌では家屋周辺での家財撤去、倉庫からの荷物搬出を実施。

現地から 現地は砂埃や暑さのため、45分ごとに休憩を取りましたが、疲労感がありました。

【5/28】雨天の為作業中止

【5/29】釜石では27日と同じ家屋での作業。大槌では民家の畑からの泥出し、石灰散布などを実施。

現地から 持ち主不明の記念写真が多く見付き、釜石の社会福祉協議会に届けました。写真が無事持ち主に届くことを願っています。（次ページへ続く）

【連合救援ボランティア 活動人数（6/1現在）】

●延べ人数 15,082名（人数×日数 実派遣者数 2,300名）

（内訳）岩手：延べ5,142名（実人数853名）
宮城：延べ4,605名（" 675名）
福島：延べ5,335名（" 772名）

(活動レポート続き)

宮城

●千厩拠点

【5/31】気仙沼市内で家屋（4か所）の片づけ作業を実施。

現地から 防塵マスクと防塵ゴーグルをしながらの作業だとゴーグルが曇って作業に支障をきたすことがあります。場所によっては使い捨て防塵マスクが午前中で真っ黒になってしまうこともありました。

福島

●福島拠点

【5/31】南相馬市、新地町で活動。南相馬では民家の庭での片づけ作業、新地では側溝の泥出し作業（右写真）、相馬では民家での家財搬出、台所清掃（床下からのヘドロの搬出）を実施。



●会津拠点

【5/31】郡山市、会津若松市、相馬市で活動。郡山では野菜切り、支援米の整理（袋詰め）、避難所でのスूप作り。会津若松では物資支援センターでの物資配布。

現地から この日、会津若松の物資支援センターには、過去最多の1,001世帯が来場。被災された方からの「ありがとう。助かりました」の言葉に感謝しました。

●いわき拠点

【5/30】いわき市内で、ボランティアセンターで備品貸し出し・返却、洗浄作業。避難所だった体育館の清掃作業を実施。

現地から 前日まで避難所だった体育館で、床に敷いていたマット、卒業式直前に被災したためそのままになっていた紅白幕を撤収しました。翌日から利用できるまでに清掃したことで、校長先生から大変感謝されました。

【5/31】いわき市豊間合磯地区で側溝の清掃を実施。

～ボランティア参加者の声～

連合救援ボランティアに参加された方々からの報告を不定期に掲載しています。今回は日教組から参加し、岩手・住田拠点で活動されている大杉周三さんからお寄せいただいた報告をご紹介します。

★★各構成組織・地方連合会から参加された方のご感想、お待ちしております★★

第8陣（2011.5.26～6.2）は、住田ボランティアセンター（五葉地区公民館）を拠点に大船渡市を中心に活動しています。大船渡社会福祉協議会の依頼を受け、連合だけでなく、他の団体や個人ボランティアのみなさんと一緒に、個人宅の片付けや側溝・市民プールのカレキ撤去などを行っています。

その活動の中で、震災のニュースを聞いてボランティアにかけたオーストラリアの方々、大船渡で生まれ東京で働いている方など、「自分のできることを一生懸命に行っている姿」に、私たち参加者の気持ちも高まっています。被災地の早い復旧と復興を目標に、みんなが「つながろうNIPPON」となっていることを実感したボランティアの活動となっています。

先日は、50mプールのカレキ撤去を行いました。とても大変な作業でした。しかし、数多くのボランティアが協力し、プールいっぱいにあったカレキや大量のヘドロがどんどん無くなっていく様子に感動しました。「子どもたちが楽しくプールで遊べる日常をとり戻す」ということに、ほんの少し参加できたことにうれしく思った活動でした。

《日本教職員組合 大杉周三さん》



■14時48分で止まった時計の下へプールのカレキと大量のヘドロを運ぶ

ボランティアに汗を流した仲間へ感謝 連合中央委員会で古賀会長

2日、東京都内で連合の第60回中央委員会が開催されました。古賀会長は、冒頭あいさつの中で連合の救援ボランティア活動について報告し、参加した組合員、各構成組織、地方連合会の協力に対して感謝の意を述べました。

■継続的・大規模な派遣 連合だからこそ

古賀会長は、「3月31日に第1陣を送り出して以降、毎週300名規模のボランティアを切れ目なく派遣してきた。現在まで約2,300名、延べ約15,000名の仲間が被災地での活動に汗を流している。このように大規模に継続してボランティアを派遣している民間組織は連合を置いて他になく、誠実で規律ある活動に対して、地元ボランティアセンターや被災した方々から評価と信頼を得ている」と報告しました。

その上で古賀会長は、「被災者に寄り添いながら献身的に活動を展開している参加者の皆さん、ボランティア派遣に対する構成組織・地方連合会の支援・協力に心からの敬意を表する」と述べるとともに、今後とも、変化する現地のニーズを的確に判断しつつ、被災地の復旧・復興につながる救援・支援を継続すると述べました。

＝被災地からも感謝のメッセージ届く＝

中央委員会には、連合がボランティア派遣を行った地域のうち、岩手県の達増知事、宮城県石巻市の亀山市長、福島県南相馬市の桜井市長からメッセージが寄せられました（次ページ参照）。メッセージには、この間のボランティア活動に対する謝意と引き続きの支援要請、そして復興に向けた決意が込められています。

活動レポート

●福島拠点

【6/1】南相馬市内で公道の側溝からの泥出し作業を実施（写真左：作業中 中：作業後）。
新地町では被災者宅の片づけ作業を実施（写真右）



◆各自治体からのメッセージ◆

(上から岩手県達増知事、石巻市亀山市長、南相馬市桜井市長)

2011年6月1日

日本労働組合総連合会
会長 古賀 伸明 様

岩手県知事
達 増 拓 也

「東日本大震災復興に向けてのご支援」のお礼と引き続きの支援について

貴組織の活動に敬意を表します。

平成23年3月11日午後2時46分に発生した「東日本大震災」により、想像を絶する甚大な被害が発生しました。この未曾有の大震災により、本県をはじめ東日本を中心に大きな被害と多くの人命が奪われるなど、私たち県民の生活は一瞬で失なわれました。

この間、日本労働組合総連合会の皆様には、激励、義援物資、義援金、さらには延べ5,800人を越えるボランティア活動等々、多くのご支援ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

今後に向けては、国、市町村、関係団体、県民など、あらゆる方々との連携を図り復興に向けて邁進していきます。

今後とも当県に対しまして、積極的なボランティア活動をはじめ引き続きのご支援をお願いいたします。

連合「災害救援ボランティア」活動へのメッセージ

平成23年3月11日は、午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震、その後に襲来した巨大な津波が石巻市を容赦なく襲い、私たちは平和な生活を一瞬にして失うこととなり、私たちにとっては忘れられない日となりました。

襲い来る巨大津波は、数千人の尊い市民の命を奪い、そして、私たちの住まいや働く場、道路や港湾、漁港など多くの財産を呑み込みました。この災害の跡に残ったものは、覆い尽くさんばかりの瓦礫の山、家族・友人を失った深い悲しみであり、市街地や集落は直視しがたいものに変貌しました。

そのような中、震災後、自衛隊や国・県をはじめ、全国の企業や自治体、ボランティアの方々など多くの支援をいただき、再建に向けた第一歩を踏み出しました。とりわけ、日本労働組合総連合会（連合）の皆様には、4月3日の「災害救援ボランティア」活動開始から述べ700人に渡り、継続した活動をいただいていますことに、深く感謝申し上げます。

本市の復興につきましては、市単独ではなく、国、県、他の地方自治体、市民、NPO、地域などあらゆる主体が対等の立場で協力する仕組みを構築し社会全体に広げ、共鳴現象を起こす必要があります。単に復旧・再生を目指すのではなく、既存の資源を活かしつつ、新エネルギー、環境、観光などを新たな柱とする産業創出や、災害に強いまちづくりの展開など快適で暮らしやすい「あたらしい石巻市」を創造していきます。

今後とも、当市に対する継続的なボランティア活動を展開していただきますとともに、ボランティア活動を通じての被災した人たちとコミュニティの形成をいただくなど、引き続きのご支援をお願いいたします。

平成23年6月2日

石巻市長 亀山 紘

23 防第 264 号
平成23年 5月30日

日本労働組合総連合会
会長 古賀 伸明 様

南相馬市長 桜井 勝延

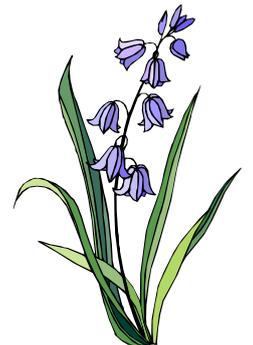


ボランティア活動のお礼と引き続きの支援について

平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災において被災した当市に対し、平成23年5月19日から瓦礫撤去を中心に毎日全国から20人もの貴会の組合員を派遣いただき、ボランティア活動を行っていただいていることに深く感謝申し上げます。

当市の復興につきましては、福島第一原子力発電所の事故もあり、今後長い道のりと予想しておりますが、皆様からの多くのご協力で、毎日着実に前進しているものと感じております。

今後とも、引き続き当市に対しボランティア派遣等のご協力をいただきますようお願い申し上げます。



つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

ボランティア第9陣319名が出発

6月3日、救援ボランティア第9陣 322名が各拠点に向け出発しました。3月31日の派遣開始以来の人員数は2,581名、延べ活動人員（人数×日数）は、15,447名となっています（6/3時点）。

初日から順調に活動がスタートされていることが報告されています。安全・健康に気をつけて、現地でご活躍ください！

活動レポート



宮城

●千厩拠点

【6/4】気仙沼市内では2カ所に分かれて、津波で流されてきたがれき処理・分別、解体補助作業を実施。



福島

●福島拠点

【6/4】相馬、南相馬市、新地町で活動。相馬では被災した旅館でお膳や椅子などの備品の移動作業、旧相馬女子高での写真整理。南相馬では個人宅のがれき・家財の撤去、側溝掃除を実施。新地町では個人宅周辺の側溝掃除と畑の土砂撤去作業を実施。

●会津拠点

【6/4】郡山市、会津若松市で活動。郡山では物資仕分け、テント設営、米袋詰め替え、山菜皮むき、洗い物作業を実施。会津若松では物資支援センターでの物資配布。

現地から

この日、会津若松の物資支援センターには、750世帯が来場。物資を必要としている方々がまだまだ多くいること、来場された方々への言葉使い、気配りの難しさを実感しています。

●いわき拠点

【6/4】いわきボランティアセンターで備品貸し出し・返却、洗浄作業。九ノ浜のがれき分別・撤去・側溝の清掃。未続駅近辺の田んぼのがれき撤去作業を実施。



気をつけよう！「慣れ」と「油断」は事故のもと

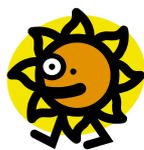
＝活動時は危険予知・回避の心がけを＝

連合のボランティア活動も第 9 陣を数え、各組織内での情報共有もあって現地での活動はスムーズになってきています。しかし、慣れた頃が危険です。梅雨の蒸し暑い天気もあいまって、活動が進むにつれて疲労は蓄積していきます。事故予防のため、改めて以下の点に留意をお願いします。

活動現場では互いに声を掛け合って事故防止に努めましょう。

- 踏み抜き：安全靴を履いていても油断は禁物！（靴の横から刺さった事例あり）。足場に注意し、不用意にガレキを蹴らないこと。
- 突き刺し：折れた木材、物干し竿に当たる事例がある。作業動線上の危険物はすぐ処理する。ヘドロの中にガラス等が含まれているので、土のうを持つ際には抱えず上から持つ。
- 転倒：津波のヘドロは油分を含むなどして滑りやすい。転倒時の頭部保護のためヘルメットを着用する。
- 重量物の運搬：必ず十分な人数で行い、声かけ・息合わせを行う。無理な姿勢にならないよう注意する。指挟みに注意。
- 泥はね：泥が目に入る、突起物の突き刺し予防のため、ゴーグルを着用する。
- 虫など：虫刺され、ツツガムシ病などを予防するため、作業中は素肌を露出しないよう気をつける。竹やぶからマムシが出てきた事例も報告されているので注意。
- 疲労防止：熱中症予防とあわせ、作業中はこまめに休息・水分・塩分をとる。ベースキャンプでは睡眠時間をしっかり取る（消灯・起床の厳守）。過度な飲酒は控える。

第 9 陣 活動レポート



宮 城

●仙台拠点

【6/4～5】亘理町内で、道路脇の側溝からの泥出し作業を実施。

現地から

電柱には、地上 3m の高さに津波の痕跡が残されています。側溝のフタは半分以上が津波で流されていたばかりか、他の場所から流されてきたと思われる別の側溝のフタが溝にはまっていることもあり、津波の威力を改めて実感しました。連合のボランティア隊は以前この地域で活動したこともあり、この日の活動を知った地域の方から飲物の差し入れを頂きました。

【6/6～9】亘理町内の寺で、境内の清掃作業を実施。墓地に堆積した土砂、漂着したワラなどを一輪車に乗せて捨てる作業（写真右）。作業中、卒業アルバムや資格証明書、賃金明細などを拾い、ボランティアセンターに預けました。



■仙台チーム作業の様子。墓地の区画や通路から運び出された土砂で、あっという間に山が出来上がった。（6日・亘理）

●千厩拠点

【6/5~6】 気仙沼市内で家屋の片づけ作業を実施。

現地から 現地は日陰になる場所が限られていることから、暑さ対策としてクイックシェード（簡易テント）を確保しました。ベースキャンプ内での暑さ、防虫対策なども課題になっています。

■千厩チーム作業の様子（8日・気仙沼）。奥にはクイックシェードが見える



福島

●福島拠点

【6/5~6】 南相馬市、相馬市、新地町で活動。相馬、新地では民家での片づけや側溝清掃、南相馬では民家の床はがし、泥出し作業などを実施（右写真：U字溝での泥出し作業の様子。上が作業中、下が作業後。）。

●会津拠点

【6/7】 郡山市、会津若松市で活動。郡山ではボランティアセンターでの野菜切り、避難所での食事提供。会津若松では支援物資の配布支援。

現地から 避難者の方との昼食会実施や、空き時間を利用したコミュニケーションなど、避難者の方々との交流もはかっています。

●いわき拠点

【6/5~7】 いわき市内で、ボランティアセンターで備品貸し出し・返却、洗浄作業。また、民家での清掃作業、側溝の泥出しを実施。



◆紹介◆「Japan Times」6月8日付に連合ボランティア隊（宮古チーム）の写真が掲載されました。（記事と写真は無関係です）



連合本部・災害対策救援本部 ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547（非正規労働センター）
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp